

## 6 日山の植物

る。しかし、一方、仏教がようやく庶民のものとなった鎌倉時代に、この山頂に牛頭天王宮が祠られたという記録もある。日山は、別に天王山ともいわれるが、この別名の由来はここにある。牛頭天王は祇園精舎の守護神で除疫の神として知られている。思うに、この日山にも、他の山岳と同じように、地域社会の生活と結びついた神仏混交の信仰があり、それが明治政府の神仏分離令によって、神道一筋にまとめられたものであろう。



頂上シバ草地のウメバチソウ

この日山神社に、地元の人達が奉納する風流の獅子舞がある。色紙で飾ったささら竹を中心にして、獅子頭をかぶって衣裳を付けた三人の子供達が舞うもので、日山神社への奉納は旧暦の8月18日に行われて来た。田沢と茂原と葛尾にあり、それぞれの社に奉納し、また他の社にも参詣する。昔は三地域の獅子舞が山上で合同したが、今では奉納の日も新暦となり、月日も変わっている。

## 田 沢 口

田沢口は、バス路線でいえば、二本松から津島行きの福島交通バスの田沢停留所で降りる。萩平を経て川口に到り、そのまま沢の底の一本道をつめる。茂原川口牧野組合の牧草地を右に見て、道はつづら折りとなり、日山スカイファームに到る。ここでは、ブタやブロイラー種のニワトリを飼育している。牧野組合の牧野には肉牛が放牧されているから、スカイファームと合せて、この一帯は動物たんばくの生産基地といえることができる。

スカイファームへの車道と分かれ、歩道が、牧草地の柵に沿って日山の東北尾根へと続いている。沢をやや登りつめた所に、御神水と